



社会人基礎力

校長 清水 一司

11月8日、1年生は上野・東京で、2年生は鎌倉でそれぞれ校外学習を実施しました。班別の行動計画からは、様々な資料を基に生徒が楽しそうに意見を交わしながらコースを決めた様子が見て取れました。1年生はどの班も昼食にこだわったようで、魅力的なお店の名前が並んでいました。2年生は昨年の校外学習の経験を踏まえて効率的に行動できるコースを作っていました。1年生、2年生とも、校外学習に向けた取組により、計画する力、実行する力が身に付いたことでしょう。

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「社会人基礎力」という概念を2006年に経済産業省が提唱しました。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力から構成されているこの力は、先月号の巻頭言で述べた「(離職割合が高い原因は)、学校から社会・職業への円滑な移行、学校教育と職業生活との接続も一因ではないか」とほぼ同じ文脈から生まれています。

3つの能力はさらに右のように12の能力要素に細分化され、いずれも「業界や職種を問わず働く人全てに共通して求めたい力」「常に新しい専門的な知識やスキルを獲得するために必要な力」とされています。人生100年時代を生き抜く子どもたちは、常に知識や技術をブラッシュアップし続けること、多様な人々と良好な関係を築くことが求められます。だからこそ社会人基礎力が必要なのです。

社会人基礎力は「机上の学習で身に付けることが難しい力」「学力検査で測ることができない力」という点で共通しています。学校では、委員会活動や係活動が「主体性」「課題発見力」「規律性」などを育む機会、部活動が「主体性」「計画力」「発信力」などを育む機会となっています。また、学校生活そのものが「働きかけ力」「創造力」「傾聴力」などを育む機会となっています。いずれの能力要素も集団生活で育むことが期待できる力なのです。

今年の校外学習も、1年生、2年生ともに大成功でした。生徒たちは達成感を得られたとともに大きな自信をもったことでしょう。一方で、生徒たちは計画どおりに行動できない難しさも経験しています。「どのように行動することが最善なのか…。」生徒たちは困難を乗り越える経験から「主体性」「実行力」「課題発見力」「状況把握力」「規律性」などを育んだはずですが、校外学習は、生徒が社会人基礎力を身に付ける絶好の機会なのです。

「社会人基礎力」の3つの能力と12の能力要素

前に踏み出す力

「主体性」「働きかけ力」「実行力」

考え抜く力

「課題発見力」「計画力」「創造力」

チームで働く力

「発信力」「傾聴力」「柔軟性」
「状況把握力」「規律性」
「ストレスコントロール力」